

ほーほーどり

我孫子野鳥を守る会

No. 184

2005年

5～6月号

新会長あいさつ

我孫子野鳥を守る会 会長 間野 吉幸

この度、4月10日の総会で我孫子野鳥を守る会の会長に就任しました間野でございます。就任にあたり一言ご挨拶申し上げます。

我孫子野鳥を守る会は1972年3月に発足し、今年で34年目を迎えた歴史ある会であります。その間、定例探鳥会をはじめ各種の探鳥行事、観察した鳥の記録、環境保全活動、会報の発行、手賀沼の鳥及び手賀沼の鳥の編纂・発行、地元各種団体との連携及び行事への参画等々幅広い活動を行い数々の表彰を受けて参りました。このような伝統ある立派な活動ある会の会長を引き受け、身の引き締まる思いであります。

当会の素晴らしい伝統の一つに、老いも若きも野鳥観察を通じ楽しんで、行動していることとあります。その活動の記録がデータベースとして30年余に渡り蓄積され、分析され手賀沼周辺の野鳥情報が詳しく報告されております。特に手賀沼の鳥で発表された手賀沼における水鳥の危機的な状況やデータに基づいた当会独自警告種の提案などは、手賀沼周辺の環境行政を考える上で一石を投じたと思います。

私は当会の活動の中で楽しさと元気を頂きました。なによりも野鳥を観察した時の感動は、心ときめくものがあります。野鳥を通しての語らいの中で掛け替えのない多くの友人を得ました。これらは私にとって大きな財産であり、大切なものです。また野鳥観察を通じ自然と触れ合う中で、環境問題に深く関心を持つようになりました。

当会の発展のためには、会員皆様の個々の探鳥活動とその記録が活動のベースであります。その上で私達の活動が、野鳥にとって良い環境が広がるように繋がれば、そこに住む私達にとっても素晴らしいこととあります。私は当会のよき伝統を踏まえつつ、会員が益々活発に楽しく活動出来るよう地道に努力したいと思います。

新体制は、副会長に飯泉仁さん(留任)と小玉文夫さん(新任)が、事務局に染谷迪夫さん(新任)と佐々木隆さん(新任)が就任し、新たに選任されます幹事団とともに当会を運営して参りますので宜しくお願い致します。

また、長い間当会を指導して戴きました木村前会長及び島崎前副会長兼事務局が退任致します。この紙面をお借りいたしましてご両人の当会に対する多大なご尽力に御礼を申し上げますと共に、今後とも我孫子野鳥を守る会へのご支援をお願い致します。長い間ありがとうございました。

記録できなくなる日が近い手賀沼のオオバン

飯泉 仁

1973年頃に故 高橋敏夫さんから「手賀沼は、鳥仲間では冬場オオバンのメッカとして有名なので、北方から渡って来る越冬群が見られることでここに足を運んでいるメンバーが多いんだ。ほら対岸（現在の柏市柏下）に観察している面々が見えるだろ。早稲田大学のメンバーだよ」と聞かされたことがある。NIRA（1988）に「水中植物が繁茂し、冬期結氷しない手賀沼は、印旛沼と並び、北方からのオオバンの越冬群に良質な生息場を提供してきた」と同様のことを述べています。

ところが、当会で手賀沼の水鳥調査を開始して以来、その数が減少傾向を続けています。手賀沼の鳥（1994）と手賀沼の鳥（2004）では、触れることができなかったオオバンの個体数について内容を報告します。

1．オオバンの収容力はいつ頃失われたか

NIRA（1988）は、「昭和40年代後半（1970年前後）の水中植物の壊滅によってその収容力を失ったことはハジロ類で見た通りである。（中略）昭和46年1705羽のオオバンが観察されたのを最後にオオバンの冬期の生息数は、昭和50年以降100羽から300羽台を大きく変動している」と述べ、「昭和50年代に見られる個体数は、オオバンが挺水植物の茎などの採餌力を持つことと、ハジロ類と異なり雑食性が強いために、昭和51年から地元の夫人によって続けられていた餌付けにより本来の収容力を上回って維持されていた」と報告しています。つまり、当会が手賀沼の水鳥調査を開始する以前に手賀沼のオオバンの収容力は既に崩壊していたことを指摘しています。

さらに、NIRA（1988）は、オオバンの個体数減少の要因にふれ、昭和40年代半ば以降、今日に至るまで我孫子市と柏市の水岸でサイクリングロードや遊歩道、自動車道造成が行われ、繁殖地の劣化が続いたことが減少傾向に拍車をかけたことを指摘しています。

2．1977年以降の個体数の推移

1977年から2004年間のオオバンの年総個体数の合計は、23804羽、年総個体数の平均は850羽でした。また、最も多かったのは1977年の2218羽、最も少なかったのは2001年の397羽でした。全体として、減少傾向の結果でした。

1977年から2004年間の個体数の推移を見ると、いくつかの傾向を読み取ることができます。その内訳は、1977年から1979年にかけての個体数の激減時期、1979年から1983年にかけての増加時期、1984年から2000年にかけての増減を繰り返した時期、2000年～2004年の減少期です。

この推移をグラフに整理してみると、2001年以降の月個体数平均は、冬期の減少傾向と繁殖期の減少傾向が著しく、手賀沼で記録できなくなる日が近いことを示唆している状態です。

3．オオバンの個体数の復活は可能か

高野（1985）が報告しているように、オオバンは泳ぎながら水草や水生昆虫などを食べる種類です。既に述べたように、昭和40年代後半（1970年前後）の水中植物の壊滅していることが明らかである手賀沼ではその復活が期待できないと結論づけることができます。

水質汚濁全国ナンバーワンを返上できたことについて、生物を指標に考えた時には手賀沼再生は道半ばと主張しているむきもありますが、収容力は失った手賀沼でのオオバン完全復活は現実的ではないことを認識すべきです。

今後、我々にできることは、冬期にろうじて渡来しているオオバンの休息している環境の保全、具体的には沼の静寂さと現在残っている葦原を減少させないことだけです。

このことができれば、過去のデータの推移から推測すると、近い将来、その姿を観察することはできなくなる状態にあることを警告します。

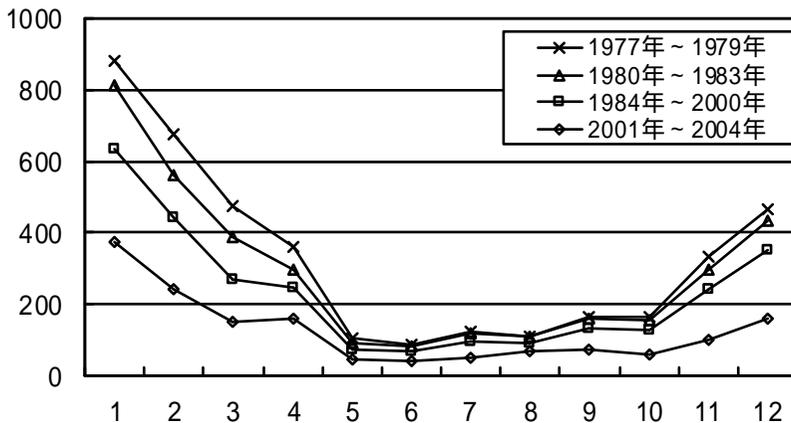
(引用)

高野伸二 監修 . 1985 . カラー名鑑 . 日本の野鳥 . p 202 . 山と溪谷社 .

NIRA . 1988 . 手賀沼 1990年代の課題 .

総合研究開発機構助成研究 . NRS - 86 - 6 . p 83 - 84 . 携帯

オオバンの個体数鳥瞰G



行事案内

第16回バードウィーク手賀沼探鳥会

5月10日から16日までバードウィークです。2日早いのですが恒例の市民探鳥会を実施します。(財)山階鳥類研究所、我孫子市鳥の博物館と当会が共催するイベントで、同日手賀沼親水広場で開催される「Enjoy 手賀沼！」(同実行委員会主催、委員長は我が会の木村名誉会長)に併せた行事になっています。

当日は市民60名以上の参加が見込まれ、探鳥会の実施面は当会が担当するので人手が必要になります。多数会員のお手伝いをよろしく願います。

期 日 5月8日(日) 雨天中止
 集 合 手賀沼親水広場 芝生 午前8時30分(緑ののぼり旗が目印です)
 担 当 全幹事
 案 内 6班編成で順次出発、ふれあい道路

を東進し、高野山新田信号の先で右折、遊歩道へ入り、滝下広場から遊歩道を戻るコースとします。班毎に鳥合せして解散です。原則的には例年どおりで、12時終了予定です。

雨天の場合は鳥の博物館見学会(入場無料)を行います。館内の案内、説明等を会員が手伝います。確認は7時30分以降「鳥博」(Tel 04-7185-2212)まで

6月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 6月12日(日) 雨天中止
 集 合 我孫子市役所 午前9時
 案 内 カルガモ、バン、オオバンの雛に会えるかも?他に、赤い口のオオヨシキリ、葦原スレスレに飛ぶヨシゴイにも会えます。又、サシバに会えることも期待しましょう。
 解 散 正午
 担 当 染谷、中野、飯島、北原

松戸市公民館の手賀沼探鳥会

松戸市内の小3以上の児童と付添いの父母による探鳥会の指導依頼を受けました。総数約30名がバスで来ます。

期 日 5月14日(土) 雨天中止
集 合 鳥の博物館駐車場 午前9時30分
案 内 12時までに戻る予定で遊歩道を行けるだけ歩きたいと思います。数名必要です。お手伝い頂ける方は島崎までご連絡下さい。
Tel/Fax 04-7187-2222

伊香保・榛名一泊探鳥会

期 日 6月4日(土)、5日(日)
集 合 我孫子駅北口 午前8時
交 通 今井観光マイクロバス
宿 泊 伊香保東急ビル
費 用 約22,000円(4,5日の昼食は別途自己負担)
案 内 伊香保森林公園で小鳥達の囀りに耳をかたむけます。榛名湖へ向かう途中、ゆうすげ公園で草原の遊歩道を散策しながら探鳥します。時間が許せば榛名神社まで行ってみましょう。
申 込 首藤佑吉まで。申込み先着25名
申込開始: 5月6日
Tel 04-7183-0863

担 当 首藤、小玉

笹川・浮島探鳥会

期 日 6月26日(日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前8時
交 通 自家用車分乗で現地へ行きます。同乗者は一人1,000円を運転者にお渡し下さい。申込の際、自家用車提供可能な方はその旨をご連絡下さい

い。
持 参 観察用具、弁当・飲物(途中購入可) 雨具
案 内 当地は天保水滸伝と日本で数少ないオオセッカの繁殖地として有名です。またコジュリン、コヨシキリのみごとな演奏を楽しんだり、オオヨシキリやセッカさらにはチュウヒなど葦原の鳥達を十分に堪能出来ます。
申 込 飯島博まで
〒270-1141 我孫子市栄25-9
Tel 04-7185-8610
担 当 間野、飯島

水辺探検隊の探鳥指導

千葉県親水広場が実施する「水辺探検隊」(3回シリーズ)のうち[野鳥]の担当を依頼されました。最低5名は必要ですのでお手伝い下さる方を募ります。次のとおりですので、よろしくお願ひします。
期 日 6月26日(日) 雨天実施(内容は別途)
集 合 水の館 研修室 午後1時30分
案 内 対象は隊員(小4~中学生)約50人
手賀沼の鳥について講話、バードウォッチング(遊歩道沿い)を行います
連絡先 染谷迪夫
Tel/Fax 04-7182-3972

日光白根山周辺の 亜高山帯の鳥に出会う会(日帰り)

期 日 7月17日(日) 雨天決行
集 合 JR我孫子駅南口 午前7時
交 通 今井観光バス
費 用 6,500円(バス代・傷害保険代・高速代・ロープウェイ代含む、昼食代別)
案 内 日光白根山は日光火山群の盟主で

行 事 報 告

2月手賀沼探鳥会とカウント

調査日時 2005年2月13日 9:00~12:00
 晴・風弱

<認めた鳥> カイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、コブハクチョウ、オオハクチョウ、マガモ、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、ミコアイサ、ミサゴ、ノスリ、バン、オオバン、タゲリ、タシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、キジバト、カワセミ、ヒバリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ツグミ、ウグイス、セッカ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス
 計46種

<探鳥班> 山住良子、飯島 博、信澤正一、小口勝久、鈴木静治、植田啓介、谷沢幸次、野口隆也、常盤孝義、木村 稔、榎本 右、島崎純造、中森純也、諏訪哲夫、佐々木隆、田中 功、戸塚道、田丸喜昭、谷山晴男、西巻実、小池忠彦、中尾葉子、大久保陸夫、橋本清、米田崇明、川田光男、桑森 亮、染谷迪夫、間野吉幸、六角昭男、堀口 勝、大田暁子、宮下三禮、山本貞江、小川克子、野口紀子、野口紀恵、佐藤弘美、中野久夫
 参加者41名

<カウント班> 飯泉 仁、飯泉久美子

調 査 種	上沼	下沼	合計
カイツブリ	5	4	9
カンムリカイツブリ	10	7	17
カワウ	29	50	79
ダイサギ	2	3	5
コサギ	7	5	12
アオサギ	3	3	6
コブハクチョウ	6	7	13
オオハクチョウ		4	4
マガモ	7	37	44
カルガモ	99	106	205
コガモ	5	150	155
オカヨシガモ	22		22

標高2577mの山です。この周辺には、コマドリをはじめ、メボソムシクイ、ノビタキ、ホシガラスなどの亜高山帯の鳥類が生息していることで知られています。関越自動車道で沼田ICから現地に向かい、現地は丸沼高原のロープウェイで山頂駅まで行き、山頂駅周辺を散策し、夏鳥を探索する予定です。宿泊探鳥会にはなかなか参加できないとのこと要望にお応えして企画しました。バスの関係で定員はありますが、多くの皆さんのご参加をお待ちしています。我孫子帰着は18時頃を予定しています。

持 参 昼食、観察用具、雨具(日光周辺は天気が変わりやすいです。ヤッケと傘の両方をご用意下さい)、防寒具(気温の変化が大きいため必ず用意下さい)、しっかりした靴、非常食(危険な箇所はありませんが、念のためをご用意下さい)

申 込 飯泉仁まで。申込開始：5月8日
 Tel 04-7175-6017

参加申込者には、コースなどのご案内を申込後にお送りします。なお、天候の関係で、コースは変更することがあることをあらかじめご了承下さい。

定 員 25名まで
 担 当 飯泉 仁・久美子、田中 功

幹 事 会

日 時 5月8日(日) 午後1時30分~
 場 所 市民会館 第2会議室
 議 題 17年度下期行事予定
 鳥だより作業部会報告
 会報185号掲載記事について
 その他(議題がある場合は事務局
 にご連絡下さい)

ヒトリガモ		35	35
オナガガモ		147	147
ハシビロガモ		6	6
ホシハジロ		20	20
ミコアイサ	1	6	7
ハン	1		1
オオハン	17	61	78
タケリ		12	12
タシキ		3	3
セグロカモメ		1	1
合 計	214	667	881

3月手賀沼探鳥会とカウント

調査日時 2005年3月13日 9:00~12:00
晴・風中

<認めた鳥> カイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、コブハクチョウ、オオハクチョウ、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、オナガガモ、オオタカ、ノスリ、チョウゲンボウ、バン、オオバン、ユリカモメ、セグロカモメ、キジバト、カワセミ、ヒバリ、ハクセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、シロハラ、ツグミ、セッカ、シジュウカラ、ホオジロ、アオジ、クロジ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス

計38種

<探鳥班> 柴本三弘、柴本法子、清岡万紀子、小林秀美、中尾葉子、八木よし子、太田暁子、榎本 右、常盤孝義、野口隆也、谷沢幸次、北原建郎、諏訪哲夫、染谷迪夫、植田啓介、橋本 清、西巻 実、小玉文夫、島崎純造、武藤康之、佐々木隆、堀口 勝、六角昭男、田中 功、木村 稔、桑森 亮、小口勝久、田丸喜昭、田丸メリー、野口鉄蔵、野口紀子、野口紀恵、小倉正巳、小倉季代子、大久保陸夫、吉田隆行、宮下三禮、西城 猛、中野久夫 計40名

<カウント班> 飯泉 仁、飯泉久美子

調査種	上沼	下沼	合計
カイツブリ	7	2	9
カンムリカイツブリ	6	1	7
カワウ	12	13	25
ダイサギ	2	3	5
コサギ	4	13	17

アオサギ	3	3	6
コブハクチョウ	1	7	8
オオハクチョウ		4	4
マカモ		2	2
カルガモ	4	13	17
コガモ		7	7
オナガガモ		29	29
ハシビロガモ		1	1
ホシハジロ		5	5
ミコアイサ		1	1
オオハン	11	68	79
タシキ		4	4
ユリカモメ	8	2	10
セグロカモメ	8	2	10
合 計	66	180	246

井頭公園探鳥会

ミヤマホオジロの群れに遭遇

小林秀美

平成17年2月5日(土)、長年諦めてきた井頭公園への探鳥会に、ついに参加することができた。1月2日の探鳥会が中止になり再度企画されたお陰なのだが、これは私にとってまったくの僥倖というもので、友人の清岡さんと共に大喜びで参加させてもらった。

当日は快晴、ほぼ無風状態で、広々と開けた関東平野のあちこちで立ちのぼる焚火の煙はまっすぐ青空へと溶け込んでいた。景色は冬枯れだったが、もう日差しは冬のものではなく、筑波山の裾野もぼんやり春霞の風情。そもそも浮かれ気分の私たちの期待はいや増した。きっと、いい出会いがあるぞ、と。

イヌイット顔負けの着ぶくれ装備で着いた井頭公園は、ほんの少し残雪があるだけで、落葉樹の多い林は明るく暖かだった。

池の凍った部分では、セグロセキレイがスケートをしながら迎えてくれた。鴨たちの数は多くはなかったものの、間近に眺められるのがなにより嬉しかった。ミコアイサやキンクロハジロは遠くても近くても可愛いのが、これまで「ブス」と思っていたヒドリガモが傍で見ると愛らしく、口笛のような声も初めて知った。「長いこと、ご無礼しました」と、お詫び。

少し陰った林の中では、声しか知らなかったシロハラに会えた。もうこの段階で大満足だったのだが、さらに嬉しいことにトラツグミの姿が。それも至近距離を、長々と落ち葉をつつきながら散歩してくれた。参加できてよかったあ……と、ほとんど溜め息。

幸福感いっぱい歩く私たちの前を、招くようにルリビタキが柵の上と遊歩道の上とを交互に行き来し、やがてこれはカメラマンの方々が餌をまいてあったお陰のようだが、ミヤマホオジロの群れに遭遇。餌でよぶのは本意ではないが、この際なんでもいい！ 平常心を失ったまま、眺めいってしまった。

姿を見られたもの、声だけのもの、どちらも知らないもの(私が)を含めて47種類もの鳥たちが迎えてくれた井頭公園。不勉強ゆえに万年初心者の私たちは、ずうっとビギナーズラックに恵まれるのかも、と厚かましいことを呟きながら帰途につく。

やがて我孫子が近づいたとき、車を運転してくれていた飯島氏が「コウノトリがいるかもしれない。見に行ってみようか」とおっしゃる。私たちに否はなく、ひょっとして……と、またムクムクと期待が頭をもたげる。

そして、いてくれたのだ。おまけに無遠慮なカメラマンを避けて、こちらに飛んできてくれたのだが、そこにアオサギがいるという間の良さ。いかにコウノトリが大きいかが、一目瞭然。10分ほどすると、水路のなかに姿を隠してしまったから、ほんの少し行くのが遅れたら、会うことはできなかった。

大きな朱色の夕陽が落ちると、空気はにわかに冷たさを増したけれども、心はポカポカ。足取りも軽く、帰京したのでした。素晴らしい探鳥会を、ありがとうございました。

<認めた鳥> カイツブリ、カワウ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサ、トビ、オオタカ(SP)、ノスリ、バン、タゲリ、キジバト、コゲラ、アカゲラ、ヒバリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ピンズイ、ヒヨドリ、モズ、ルリビタキ、ジョウビタキ、トラツグミ、アカハラ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、ミヤマホオジロ、アオジ、ベニマシコ、スズメ、ムクドリ、カケス、ハ

シボソガラス、ハシブトガラス 計47種
<参加者> 田丸喜昭、田丸メリールイス、西巻実、中野久夫、諏訪哲夫、金成典知、榎本右、田中功、間野吉幸、鈴木静治、北原建朗、桑森亮、植田啓介、染谷迪夫、大久保陸夫、小玉文夫、吉田隆行、宮下三禮、小林秀美、清岡万紀子、佐々木隆、首藤佑吉、飯島博、猪爪敏夫、木村稔
参加者25名

(1月2日実施予定の探鳥会は年末の大雪の為中止となりましたが、その後有志により改めて行いました)

春の水鳥と銚子のかもめに出会う会

かもめ三昧の二日間

西巻実

実施日 平成17年3月5日-6日

担当幹事さんは下見までして那珂湊や大洗で各種の海鳥を見たあと銚子に行くことを計画されたが、あいにくの降雪のため変更して銚子に直行することになった。5日の午前午後と6日の午前中をかもめに集中できた。こんなにかもめに熱中し楽しかったことは珍しい。ほかの鳥も見たが今回はそのことだけを報告する。

この時期のかもめは銚子の堤防に無数にいる。ほんとに手当たりしだいである。はやる心を抑えて飯泉さんのレクチャー。「今回は成鳥だけにする(若いかもめは難しい)。見るところは足の色、背のグレーの濃さ、嘴の色と模様、この三箇所をしっかりと見ること。」

若いかもめは本当に厄介だ。これを外してもらおうと大分楽になる。足の色は大別して3色。セグロカモメの仲間の赤。ウミネコやカモメの黄。ミツユビカモメの黒。赤といっても幅があるのは当然。背のグレーは殆ど白に近い極うすのシロカモメから黒に近いウミネコまで各種。嘴は赤と黄が殆どでそこに赤や黒の模様がある。

これらのことを頭に入れて、なにはともあれ望遠鏡で端から見る。たくさんいてありがたいが重なって体全部がなかなか見られない。とにかく判断のつくやつを自分なりに決めて行く。これは足が黄で背が濃いグレーで

嘴に赤黒の模様があるからウミネコ。こいつは足が赤で背が薄いグレーで黄の下嘴に小さい赤班があるからセグロカモメ。その隣は同じようだが背のグレーが濃いからオオセグロカモメと見て行く。ほとんどはこの3種が占めるが、ときどきカモメがいる。これは小群でいることが多い。なにしろ重なって全容が見られない個体が多いが、連中も少しは動くので、繰り返し繰り返し見る必要がある。そのように丁寧に見て行くとシロカモメやワシカモメも見つかる。ミツユビカモメは特徴(小型で足が黒くて短い、うす黄の嘴)がはっきりしているので、飛んでいるものも気がつく(写真1)。



写真1 西巻実 撮影

ホイグリンカモメをさがす(写真2 中央 諏訪哲夫さん撮影)。特徴はセグロカモメの仲間だが脚が黄、背の色はセグロカモメとオオセグロカモメの中間、嘴の赤班が大きく上嘴までのびているものもいるなど。



写真2 諏訪哲夫 撮影

まず足に気をつけて探すと、セグロカモメ

くらいの大きさで足が黄色のやつがいた(!)。背のグレーは隣のセグロカモメより少し濃い(いいぞいいぞ)。しかし寝ているので嘴が見えない(こら! 起きろ)。ずいぶん熟睡している。かなり待たされてようやく頭を上げた(!)。赤班は大きい(でも、とても大きいとは言えない(だいぶガッカリ))。写真を撮る。ほかの人に確認してもらう前に、そのかもめはまた寝てしまう。移動でその場は終わり。

帰宅して写真を見ると足の色は本(カモメ 識別ハンドブック・氏原巨雄・氏原道昭 / 著)のとおり、背の色は書いてある範囲だが氏原氏のHP にでているもの(本)はもっと濃い。ここで写真での色合いに注意が必要だ。フィルムでもデジカメでも写真は決して真を写さない。ちょっとしたコントラストの加減でセグロがオオセグロになる。だからできるだけ比較対照になるものを一緒に写すことだ。写真が狂っても判断がつく。

今回はホイグリンカモメが出ているが私は似たものは見つかったが、これぞ本物といえるものは見つからなかった。生き物はそんなに本のとおりでもないし、本物だったとしても個体によって差があるはずだ。だから一筋縄では行かないし、それだから面白い。もっと勉強して銚子でいつか・・・と思う。

当日は飛び切り寒かった。汚い話だが私は寒いと鼻水が出る。生理的な防衛策らしくてカゼにはならない。鼻水をたらしながら楽しんでた。ほんとに二日間があっという間であった。こんな得がたいチャンスを与えてくれた担当幹事の皆様に感謝 !!

<認めた鳥> カイツブリ、ハジロカイツブリ、ミミカイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ウミウ、ヒメウ、ダイサギ、コサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、トモエガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、スズガモ、シノリガモ、ミコアイサ、トビ、チュウヒ、チョウゲンボウ、オオバン、ミヤコドリ、イソシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、ワシカモメ、シロカモメ、カモメ、ウミネコ、ミツユビカモメ、ホイグリンカモメ、カナダカモメ、キジバト、カワセミ、ヒバリ、ハクセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、ルリビタキ、メジロ、ホオ

ジロ、シジュウカラ、アオジ、カワラヒワ、マヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計 60 種 (番外)カワラバト

<参加者> 伊藤貴子、野口幸子、宮下三禮、飯島 博、北原建郎、中野久夫、金成典和、間野吉幸、諏訪哲夫、西巻 実、木村稔、佐々木 隆、田中 功、吉田隆行、桑森亮、鈴木静治、飯泉 仁、大久保陸夫、染谷迪夫 参加者 19 名

葛西臨海公園探鳥会

ハイライトはスズガモの大飛翔

岩田マキエ

実施日 平成 17 年 3 月 27 日

「ほーほーどり」が届いた日から待っていたこの日、暖かいしお天気もいい。

みなさんと我孫子駅から乗り継いで葛西臨海公園へ。まず鳥類園に入り鳥の轉りを聞きながら小路をゆくと両側にはトサミズキ、アシビ、ヤマツツジが咲いている。サクラの蕾はまだ固いけれど。上の池、下の池ではアオサギ、ホシハジロ、ちょこちょこ可愛いコチドリ、オオバン等を見た。途中で思いがけずオオタカが頭上近くをゆっくり翔ぶのに出会い、なんて幸先のいいこと。

江戸川に出て右の方へコンクリート護岸を歩きながら、セイタカシギ、セグロカモメ、ウミネコ等を見ていると「スズガモが見える」と言う誰かの声が聞こえ望遠鏡を覗かせてもらった。が、東なぎさの堤防の向こうにはふとく長い帯になって黒い何かがびっしりと浮かんでいるだけ・・・と私には見える。

ウオッチングセンターからキンクロハジロ、ミコアイサ等も見て、スズガモの浮いている海を眺めながらベンチで昼食。

葛西渚橋を渡り西なぎさの突端までゆくと、望遠鏡でスズガモがしっかり捉えられた。「何万羽もいる。これが翔ぶとすごいよ」云われそんな僥倖には?、と思いつつ望遠鏡を覗いていると、あ、翔んだ!! 羽撃きながら上昇する姿がきれいに見え慌てて空を見る。翔んでいる、翔んでいる。西よりの群れから

順に、まるで煙が流れるようにゆるやかな曲線を描きながら次々に翔びたっている。そして西側に着水した。映像でしか見たことのない大スペクタクル。みんな大喜びでカメラマンも大忙し。

次の雑木林公園ではハクモクレン、ミモザ、ハナニラに歓声をあげ、途中トラツグミの写真を撮った人も。鳥合わせをして帰途につく。スズガモ達ありがとう。みなさん、ありがとうございました。

<認めた鳥> カイツブリ、ハジロカイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ミコアイサ、トビ、オオタカ、チュウヒ、クイナ、オオバン、コチドリ、タシギ、セイタカシギ、ウミネコ、セグロカモメ、ユリカモメ、キジバト、ハクセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、ジョウビタキ、トラツグミ、アカハラ、ツグミ、ウグイス、シジュウカラ、メジロ、アオジ、オオジュリン、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス

計 45 種

<参加者> 山本貞江、首藤佑吉、諏訪哲夫、大久保陸夫、鈴木清治、島崎純造、小玉文夫、吉田隆行、佐々木隆、桑森 亮、中野久夫、間野吉幸、松田吉保、植田啓介、岩田孝之、岩田マキエ、田丸喜昭、田丸メリールイス、柴本三弘、柴本法子 参加者 20 名

幹事会報告

日 時 3 月 13 日 (日) 13:30 ~ 16:00

場 所 水の館 研修室

出席者 19 名

議 題 総会提出資料の検討、決定

・16 年度活動状況、決算案

・17 年度事業計画、予算案

手賀沼学会発表会 (7/10) 参加の件

会報 184 号掲載予定確認

17年度定期総会報告

事務局

4月10日(日)平成17年度定期総会が水の館研修室で開催されました。議事に先立って、4月1日に我孫子市鳥の博物館館長に就任された杉森文夫さん(前山階鳥類研究所広報室長)から、来賓あいさつを頂きました。木村会長が議長となり、事務局・会計幹事から議題「平成16年度事業活動報告案」、「同決算案」、「会計監査報告」、「平成17年度事業計画案」及び「同予算案」を順次説明し、いずれも原案どおり承認されました。

本総会で役員全員が任期満了となりましたが、会則により総会で選任する会長、副会長及び会計監査のうち木村会長及び島崎副会長から退任希望があり、会長に間野吉幸さん、副会長に小玉文夫さんの新任、飯泉仁副会長、会計監査2名の再任が承認されました。任期は何れも平成19年総会までの2年間です。

新会長より木村 稔さんを名誉会長、島崎純造さんを顧問に推薦する提案があり承認されました。

各議案の詳細等については事務局までお問合せ下さい。

【新役員等】

会 長	間野	吉幸	(新任)
副会長	飯泉	仁	(留任)
	小玉	文夫	(新任)
会計監査	大久保	陸夫	(留任)
	村井	治	(留任)

名誉会長	木村	稔	(新任)
顧 問	赤尾	完	(留任)
	島崎	純造	(新任)

事務局	染谷	迪夫	(新任)
	佐々木	隆	(新任)

【平成16年度決算及び17年度予算の概要】

	16年度決算額	17年度予算額	
収入の部			
会費	305,000	300,000	
会行事収入	1,585,100	1,300,000	
外部行事収入	48,000	50,000	

ビ・ホフ° 受託収入	126,000		126,000
引当金取崩し	1,760,000		
その他収入	122,157		
前年度繰越金	264,244	220,708	
<u>合 計</u>	<u>4,210,501</u>	<u>1,996,708</u>	
支出の部			
野鳥の部	1,671,099	1,485,000	
環境保全の部	6,151	20,000	
啓発活動の部	212,645	280,000	
庶務の部	82,813	138,000	
手賀沼の鳥編纂の部			
	1,684,745		
その他費用	332,340	70,000	
次期繰越金	220,708	3,708	
<u>合 計</u>	<u>4,210,501</u>	<u>1,996,708</u>	

<出席者>

赤尾 完、飯島 博、飯泉 仁、飯泉久美子、猪爪敏夫、榎本 右、大久保陸夫、北原建郎、木村 稔、桑森 亮、小玉文夫、小林寿美子、小林秀美、西城 猛、佐々木隆、島崎純造、首藤佑吉、杉森文夫、鈴木静治、諏訪哲夫、染谷迪夫、田丸喜昭、谷山晴男、中野久夫、西巻 実、松田幸保、間野吉幸、宮下三禮、六角昭男 以上29名

お知らせ

【寄付】

寺田義雄さんよりご寄付をいただきました。有難うございました。

【新会員紹介】

- ・ 鳩川堯 (市川市中国分)
- ・ 鳩川幸子 (市川市中国分)
- ・ 鳩川志保 (市川市中国分)
- ・ 太田暁子 (我孫子市新木野)
- ・ 松下勝子 (柏市塚崎)
- ・ 松本勝英 (我孫子市中峠)
- ・ 松本葉子 (我孫子市中峠)

会員からのお便り

寺田義雄さんより
「小生8月で満96歳です。足が不自由な

ので会には出られませんが、庭の鳥を見て楽しんでます」

平成 17 年度会費納入のお願い

平成 17 年度の会費納入時期が参りました。まだ納入されていない方は郵便局の払い込み用紙を同封いたしましたのでよろしくお願ひします。
年会費 一般 2,000 円、大学生・高校生 1,000 円、中学生以下 500 円、家族会員 無料

投稿のお願い

会員の皆さんからの探鳥記、楽しい話題、スケッチ、写真等の投稿をお待ちしています。投稿先 小玉文夫まで
〒270-1144 我孫子市東我孫子 1-2 8-8
Fax 04-7139-8260

鳥だより

01.01 [岡発戸] 材効(1) 笹川昭雄
01.01 [岡発戸] フョウゴノボウ(1)追跡飛翔 笹川昭雄
01.01 [手賀川] ミコ(1)飛翔 笹川昭雄
01.10 [高野山] ヒ(1)飛翔 笹川昭雄
01.11 [高野山] フョウゴノボウ(1)襲撃失敗 笹川昭雄
01.16 [弁天下] コノリ(1)採餌 熊木雄一
01.16 [弁天下] コミヌク(1)物色 熊木雄一
01.20 [大井] コノリ(1)電柱上に 志賀鉄雄
01.23 [大津川] ハコシロ(1)声 志賀鉄雄
01.23 [北新田] 材効(1)越流堤横柳上 中野久夫
01.24 [大井新田] コミヌク(1)カラス 3羽にモビングされる 志賀鉄雄
01.24 [手賀沼下沼] 材効(4)幼鳥 飯泉 仁・久美子
01.24 [片山] ヤガラ(1) 飯泉 仁・久美子
01.24 [片山] コノリ(4)地面で採餌

飯泉 仁・久美子
01.25 [我孫子] 材効(1)電中研斜面林上を飛翔 中野久夫
01.25 [北新田] 材効(1)越流堤横柳上 中野久夫
01.25 [北新田] コノリ(1)2号排水路採餌 中野久夫
01.26 [手賀沼 下沼] ミコ(1)杭上 志賀鉄雄
01.26 [中峠] コノリ(1)飛び立ち 松田幸保
01.27 [手賀沼上沼] ハブサ(1)鉄塔に止る 志賀鉄雄
01.27 [手賀沼上沼] コノリ(1)物色飛翔 志賀鉄雄
01.28 [大井新田] ハブサ(1)飛翔 志賀鉄雄
01.28 [手賀沼上沼] コノリ(1)葦際の棒上に 志賀鉄雄
01.29 [新利根] コノリ(5)採餌 熊木雄一
01.29 [新利根] フョウゴノボウ(1)飛翔 熊木雄一
01.29 [新利根] コノリ(1)物色 熊木雄一
01.31 [手賀沼上沼] ハブサ(1)鉄塔より飛び立ち 志賀鉄雄
01.31 [北新田] コノリ(1)物色飛翔 中野久夫
02.03 [北新田] 材効(1)休耕田で 中野久夫
02.04 [根戸新田] コノリ(4)姿を観察 中森純也
02.07 [大井新田] ハブサ(1)ドバトを掴み鉄塔へ 志賀鉄雄
02.07 [大井新田] フョウゴノボウ(1)鉄塔より飛び立ち直ちに戻る 志賀鉄雄
02.07 [手賀沼上沼] コノリ(1)飛翔 志賀鉄雄
02.07 [手賀沼上沼] ヒ(1)飛翔 志賀鉄雄
02.07 [北新田] コノリ(1)帆翔 中野久夫
02.07 [北新田] コノリ(1)帆翔 中野久夫
02.07 [北新田] 材効(1)休耕田で 中野久夫
02.09 [大井新田] フョウゴノボウ(1)棒上に止まる 志賀鉄雄
02.09 [戸張新田] ヤガラ(4)姿を観察 中森純也
02.11 [北新田] 材効(1)休耕田で

02.12	[上沼田]	ヲル(1)物色飛翔	中野久夫	02.22	[大井新田]	ノリ(1)飛翔	志賀鉄雄
				02.24	[手賀沼上沼]	ミヅ(1)飛翔	志賀鉄雄
02.12	[片山]	ヒ(1)飛翔	大久保陸夫	02.24	[岡発戸新田]	材カ(1)飛翔	志賀鉄雄
02.12	[手賀川]	材カ(1)杭に止まり飛び立ち	志賀鉄雄				戸谷輝夫
02.12	[手賀沼下沼]	ミヅ(1)杭上	志賀鉄雄	02.24	[岡発戸新田]	ヒ(1)飛翔	戸谷輝夫
02.12	[手賀沼下沼]	ヲル(1)飛翔	志賀鉄雄	02.24	[手賀沼下沼]	コハヤウ(1)	戸谷輝夫
02.12	[古戸]	ヒ(1)物色採餌	諏訪哲夫	02.26	[北新田]	材カ(1)飛翔	桑森 亮
02.13	[手賀沼]	ノリ(2)下沼	飯泉 仁・久美子	02.26	[北新田]	ノリ(3)樹上、飛翔	桑森 亮
02.13	[手賀沼]	ミヅ(1)下沼	飯泉 仁・久美子	02.26	[北新田]	ハイヲル(1)飛翔	桑森 亮
02.13	[東中新宿]	カウ(1)21:26 林で鳴いていた	飯泉 仁	02.26	[北新田]	ハブサ(1)飛翔	桑森 亮
02.14	[手賀沼上沼]	ミヅ(1)物色飛翔	志賀鉄雄	02.26	[北新田]	ホウ(2)飛翔	桑森 亮
02.14	[布瀬新田]	ヒ(1)飛翔	志賀鉄雄	02.26	[北新田]	ノリ(1)葦原	桑森 亮
02.14	[布瀬新田]	ノリ(1)飛翔	志賀鉄雄	02.27	[手賀沼下沼]	ミヅ(1)杭上餌物色	桑森 亮
02.14	[岡発戸谷津田]	マカ(2)枝から枝に飛ぶ	首藤佑吉・美恵子	02.27	[片山新田]	ノリ(1)飛翔	桑森 亮
02.15	[岡発戸・都部谷津田]	ノリ(1)採餌	染谷迪夫	02.27	[岡発戸市民の森]	マカ(1)樹間移動	桑森 亮
02.17	[北新田]	ハブサ(1)電柱上	中野久夫・金成典知	02.27	[北新田]	ノリ(1)葦原	桑森 亮
02.18	[北新田]	ノリ(2)電柱上	中野久夫・金成典知	02.27	[大井新田]	ホウ(1)鉄塔にとまる	志賀鉄雄
02.18	[北新田]	ハイヲル(1)、物色飛翔	中野久夫・金成典知	02.27	[岡発戸新田]	ノリ(2)採餌	染谷迪夫
02.18	[北新田]	カキ(3)2号と3号排水路で採餌	中野久夫・金成典知	02.27	[南柏]	ミヅ(1)16時10分頃、流山市松ヶ丘方向から出現し豊四季～豊町方向を滑翔	飯泉 仁
02.18	[布施]	ノリ(4)夕方5時ごろ斜面林上を鳴ながら飛翔	中野久夫	03.02	[鷺野谷新田]	ノリ(1)飛翔	志賀鉄雄
02.18	[弁天下]	ミヅ(1)北へ飛翔	中野久夫	03.02	[手賀沼下沼]	ミヅ(1)物色飛翔	志賀鉄雄
02.20	[手賀沼 上沼]	ミヅ(1)杭上で食事	志賀鉄雄	03.02	[あけぼの山公園]	キタキ(5)樹間を移動	中野久夫
02.20	[手賀沼上沼]	ノリ(1)葦の中で声	志賀鉄雄	03.02	[あけぼの山公園]	マカ(2)樹上で採餌	中野久夫
02.20	[岡発戸新田]	材カ(1)捕獲攻撃	首藤佑吉	03.03	[あけぼの山公園]	キタキ(2)木を飛び回る	西巻 実
02.21	[大井新田]	ノリ(1)田に降りていた	志賀鉄雄	03.03	[大津が丘]	ツ(1)マンションの工事用足場に止まって鳴く	山本貞江
02.21	[岡発戸新田]	ノリ(1)葦で餌	首藤佑吉	03.07	[つくしが丘]	ツ(1)07:07住宅地上空を鳴きながら通過した	飯泉 仁
				03.08	[手賀沼下沼]	ミヅ(1)杭上で食事	志賀鉄雄

- 03.10 [北新田] 伽斗(1)青山水門で採餌 中野久夫
- 03.12 [岡発戸] ヒ(2)飛翔 桑森 亮
- 03.12 [曙橋] オウチヨ(4)遊泳 桑森 亮
- 03.12 [曙橋] コウチヨ(1)遊泳 桑森 亮
- 03.12 [片山新田] ヒ(2)飛翔 桑森 亮
- 03.12 [片山新田遊歩道] ヒ(2)採餌 桑森 亮
- 03.12 [片山新田遊歩道] ミカ(1)採餌 桑森 亮
- 03.14 [手賀沼下沼] ミカ(1)捕食、杭上で 志賀鉄雄
- 03.15 [北柏ふるさと公園] アスイ(1)採餌 諏訪哲夫
- 03.15 [北新田] 材カ(1)飛翔 中野久夫・金成典知
- 03.15 [北新田] ノリ(2)河川敷柳上と排水 中野久夫・金成典知
- 03.15 [北新田] フカ(1)ボウ(1)畦上 中野久夫・金成典知
- 03.18 [手賀沼上沼] アスイ(1)大井新田地先 志賀鉄雄
- 03.19 [北新田] ハイチカ(1) 畦で獲物 中野久夫・金成典知
- 03.23 [北新田] コウリ(1)落とし堀で採餌 中野久夫・金成典知

オウチヨは1月24日～3月12日の間に継続的に観察されました。

今回の観察者の総投稿件数

赤尾 完	14
飯泉 仁	9
飯泉久美子	6
飯泉 仁・久美子	99
大久保陸夫	16
熊木雄一	12
桑森 亮	51
笹川昭雄	12
志賀鉄雄	107
首藤佑吉	7
首藤佑吉・恵美子	27
諏訪哲夫	6
染谷迪夫	8
戸谷輝夫	38
中野久夫	42
中野久夫・金成典知	40
中森純也	3
西巻 実	2
西巻 実・岡本信夫	18
松田幸保	4
山本貞江	2
計	523

なお、コウリは1月16日～3月23日の間に、

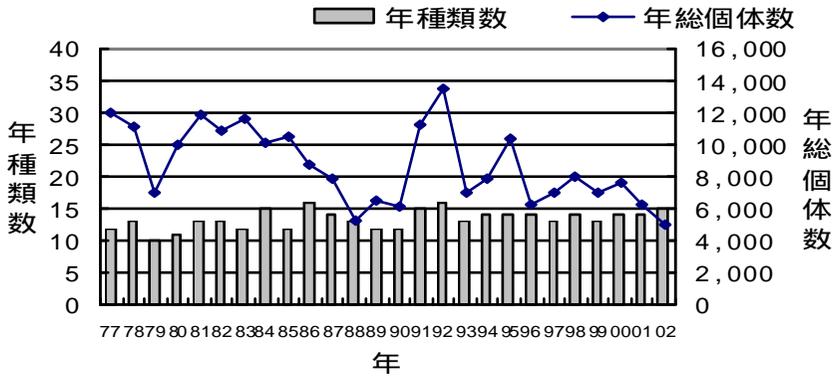
紙面の都合上、皆様から寄せられた鳥だよりの一部を掲載させていただきました。なお、ご報告いただいた鳥だよりは全てをデータベースとして収録させていただきました。

手賀沼の水鳥(我孫子野鳥を守る会：手賀沼の鳥 2004)

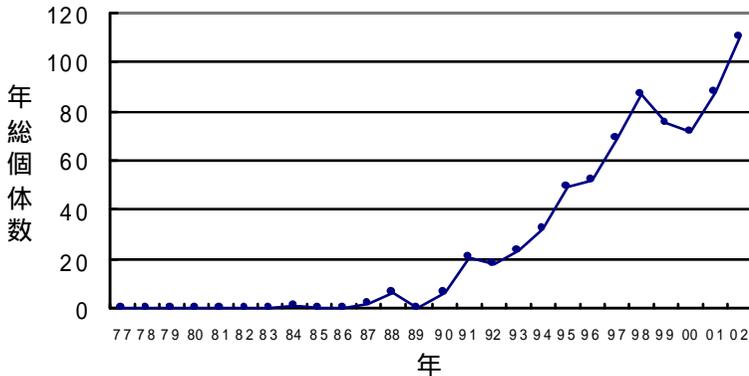
ザギ科の年種類数と年総個体数の推移



カモ科の年種類数と年総個体数の推移



ハクチョウ類の年総個体数の推移



我孫子野鳥を守る会会報 No184 2005年 5～6月号)

発行 2005年5月1日

発行人 間野吉幸 我孫子野鳥を守る会 会長

編集人 猪爪敏夫、小玉文夫、佐々木隆、宮下三禮

事務局 染谷迪夫 〒270-1154 我孫子市白山 1-9-4 Tel 04-7182-3972

振替 00140-2-647587 我孫子野鳥を守る会

会費 年会費 2,000円 (大学生、高校生 1,000円 中学生以下 500円 家族会員 無料)